

介護老人保健施設ライフサポートねりま

症 例 概 要 利用者：90代前半 女性 要介護5

病 名：急性脳症（肝性脳症）

利用サービス： 入所

経 過：令和4年9月に自室（サ高住）で転倒しているところを発見され、高アンモニア血症で入院。10月に退院するも同月に再度アンモニア値高値となり再入院となる。

廃用、筋力低下が進み、今までの住居に退院できないため、ADL修正自立目的で令和4年12月上旬に入所となった。

内 容

急性脳症（肝性脳症）により廃用、筋力低下があるため、リハビリ目的にて入所された。入所時は、耐久性がないため食事以外は臥床し、食後も「疲れた、早く横になりたい」との希望が多く、臥床時間が多かった。

表情も乏しく、発語も少なかった。

掴むものがあれば立位は安定出来ていることから、まずは生活リハビリからと食事時は車椅子から椅子座位に変更し、少しのタイミングでも立位をとるよう心掛けた。

また、ご本人の体調に合わせて離床の声掛けを行い、徐々に離床時間が増え、毎日の体操にも参加できるようになっていった。スタッフからは「少しずつ動けるようになってますよ」、「起きていられる時間が伸びていますね」と声掛けを行い、「みんなが言うならそうなのかもね」と、ご本人と一緒に事実を共有し喜ぶことができた。

スタッフとの関係性も築けたことでご本人から話しかけていただくことも増え、表情も明るくなり、「一人で動けるようになりたいね。」との言葉があった。その目標に向かってリハビリを行い、車椅子の足漕ぎのみから、靴履き、車椅子への移乗の自立、そしてすぐに車椅子での修正自立になることができた。ご本人からも「時間かかるけどできるよ」「歩けるようになればね～」とどんどん意欲的な声が聞かれるようになっていった。

退所1ヶ月前には自立度の高いフロアへ移動することもできた。周りの利用者さんも自分で動ける方が多いことから、「みんな動くの早いから私も頑張ってるよ」と前向きな声も聞かれた。

廊下内を散歩されているときに「皆さんが声をかけてくれるから元気になれたよ」と笑顔で話されており、ご希望であったご主人の入所されている有料老人ホームへ手を振って退所された。

利用者さんとコミュニケーションを取り、関係性を築いたことでご希望を汲み取ることが出来、一緒に目標に向かって寄り添うことのできた症例。